



嫁の手仕事

祖谷の暮らしにとつて、「粉ひき」はなくてはならない仕事です。米の収穫はほとんど見込めない山あいでは、麦、粟、黍、豆、そして蕎麦を主食代わりにしてきた時代が長くありました。麦の粉は「はつたい粉」、蕎麦の粉は「そばきり」、粟や黍は餅や団子にして、ときには保存食として、あるときにはもてなしの「ごちそう」として食されてきました。

粉をひく作業は、祖谷の嫁たちの仕事。昼間は山で野良仕事、夜は夜で粉ひき作業。石臼を黙々と回していれば眠くならないわけが



祖谷の粉ひき節

祖谷のかずら橋や 蜘蛛の巣の如く
風も吹かんのに ゆらゆらと
吹かんのに 吹かんのに 風も
風も吹かんのに ゆらゆらと

祖谷のかずら橋や ゆらゆらゆれど
主と手を引きや こわくない
手を引きや 手を引きや 主と
主と 手を引きや こわくない

粉ひきばあさん お年はいくつ
私じゃ引木と 同い年
引木と 引木と 私じゃ
私じゃ引木と 同い年

山の名物 Local specialties of a mountain

祖谷の粉ひき節 ものがたり

ありません。そこで「粉ひき節」を口ずさみながら、眠気を紛らわせていたのです。

「粉ひき節」は東祖谷を中心に歌い継がれ、それぞれの家でうたい文句には微妙な違いがありました。それらをまとめて、「祖谷の粉ひき節」や「祖谷の里唄」として楽譜に残したり、あるいはレコーディングが行われ、全国に知られるようになりました。仕事唄でありながら優美さを持つ「粉ひき節」。我慢強く、たくましく、ときにはなまめかしく美しく、手間暇かけて家族を支えてきた「日本の母」の姿が浮かび上がってきます。